

## Ⅲ 調査結果の概要

### 1. 住みごちと定住意識について

最初に住みごちをたずねたところ、約3割が“住みよい”としており、これを平成14年度の調査結果と比較してみると6ポイント増加しています。また、住みごちについては「普通」と回答した人が多く35.4%を占めています。一方、“住みにくい”は約2割となっています。

住みごちを年齢別にみると、30～39歳より上の年代では「普通」という回答が多くなっていますが、19歳以下や20～29歳といった若い年代では“住みよい”という割合が多くなっています。

次に、地域の生活環境などについて項目ごとに満足度をたずね、その回答構成から加重平均値を求めました。その結果、評価が高かったのは、生活環境の分野では『樹木・街路樹など緑の多さ』や『江戸川や中川など水辺の多い自然環境』、『日常生活での買物の便利さ』、都市基盤の分野では『日当たり・風通し・静けさなどの住環境』と『ごみの収集方法』、市民活動・交流・行政の分野では『近隣の間人間関係』や『広報「みさと」の見やすさ』、『市ホームページの見やすさ』、『住民票等証明書の発行での市民サービス』といった項目でした。一方、保健・医療・福祉の分野と教育・文化の分野では、全体的に低い評価となっています。

これからも三郷市に住みたいかという定住志向については、「ずっと住みつづけたい」、「当分の間は住みつづけたい」という定住志向のかたが約7割を占めて多くなっています。これを平成14年度の調査結果と比較してみると、「当分の間は住みつづけたい」が約9ポイント増加していることから、定住志向のかたの割合は増加しています。一方、転出志向のかたは12.5%おり、転出したい理由については「通勤・通学に不便だから」が最も多くなっています。

定住志向を居住年数別にみると、居住年数が1年未満では定住志向のかたが約9割を占め、他の層より多くなっています。一方、5年以上10年未満では転出志向のかたが3割近くを占めています。

### 2. 三郷市全体について

三郷市のイメージを表す言葉の上位5項目は、「特徴がない」が約5割で最も多く、次いで「いなかっばい」、「素朴な」、「不便な」、「雑然としている」が続いています。

次に、市のどんなところに魅力を感じているかをたずねたところ、「三郷中央駅周辺および武蔵野操車場跡地の開発、三郷インター周辺整備など、今後も発展の可能性を秘めている」が約4割で最も多くなっています。次いで、「みさと公園や江戸川・中川など、水と緑に恵まれている」と「大都市近郊の割には農地が多く残り、自然環境が良い地域である」が多くなっており、市の発展に対する期待とともに自然環境について魅力を感じていることがうかがえます。

さらに、将来どのようなまちになって欲しいかについては、「治安がよく、災害への備えが充実したまち」が約5割で最も多く、次いで「高齢者・障がい者・子ども等が安心して暮らせるまち」が多くなっています。これを年齢別にみると、20～29歳より上の年代では、「治安がよく、災害への備えが充実したまち」と「高齢者・障がい者・子ども等が安心して暮らせるまち」が第1位と第2位を占めています。一方、19歳以下でも「治安がよく、災害への備えが充実したまち」が第1位になっていますが、第2位には「交通機関の整備された、通勤や通学に便利なまち」が挙がっています。

今後力を入れてほしい分野については、「医療制度の充実」が約4割で最も多く、次いで「高齢者・障がい者福祉の推進」が多くなっています。これを年齢別にみると、20～29歳と30～39歳では「子育て支援対策の充実」が最も多く、40～49歳より上の年代では「医療制度の充実」や「高齢者・障がい者福祉の推進」が多くなっています。このような結果から、年代によって力を入れてほしい分野が異なっていることがわかります。

## 3. 地球温暖化問題について

地球温暖化問題への関心については、関心のあるかたが約9割、関心のないかたは約1割となっています。地球温暖化問題の対応については、「多少不便になっても積極的に対策を行うべき」が約3割、「どちらかという地球温暖化防止対策を優先」が約2割で、“地球温暖化防止対策優先”と考える人が過半数を占めています。

これを地球温暖化問題への関心度別にみると、『かなり関心がある』という人では「多少不便になっても積極的に対策を行うべき」が約半数を占めており、積極的な対策を考える人が多くなっています。しかし、関心が低くなるほど、“地球温暖化防止対策優先”と考える人の割合は減少する傾向となっています。

## 4. スポーツ・レクリエーション活動について

現在行っているスポーツ・レクリエーション活動についてたずねたところ、「ウォーキング・ジョギング」が約3割で最も多く、今後やってみたいスポーツやレクリエーション活動でも「ウォーキング・ジョギング」が最も多くなっています。

活動場所については、「市内の公共施設（体育館、地区文化センター等）」が比較的多く、活動頻度については“週1回以上活動している人”が約7割を占めています。活動の目的については、「健康や体力づくりのため」が約5割で最も多く、次いで「運動不足解消のため」が約4割、「友人・仲間との交流」が約3割となっています。

今後、スポーツやレクリエーション活動を行う上で望むことについては、「低料金で楽しめる活動」と「気軽に楽しめる活動」の2項目が多くなっています。

## 5. 公立学校の適正規模、学校選択制について

小中学校の1学年の学級数はどのくらいが良いと思うかをたずねたところ、まず小学校では「3学級」が過半数を占めています。一方中学校では、「3学級」と「5学級以上」がそれぞれ約3割となっています。

現在三郷市では、小中学校とも、学校規模（収容人数）の範囲内で市内のどこの学校への入学も希望できる「学校選択制」を導入しています。この学校選択制についてどのように思うかをたずねたところ、「現在の方式がよい」が3割を超えて最も多くなっていますが、「隣接学区だけを選択可」や「選択制は廃止」もそれぞれ約2割で、現在の方式を変更した方がよいとしたかたが上回っています。

## 6. 市民と行政による協働のまちづくりについて

まず、市民活動やボランティア活動の参加状況をたずねたところ、“参加している人”は約3割でした。“参加している人”の割合は、年代が上がるのにしたがって多くなる傾向がみられ、60～69歳では約4割を占めています。

参加している活動内容については、「町会、自治会等の活動」が約7割で圧倒的に多くなっています。さらに、現在参加している活動で、今後、市民と行政と協働で活動したいと思うかについては、「既に協働している」が約2割、「協働したい」が約4割となっています。

一方、市民活動やボランティア活動に“参加していない人”は約7割を占めています。特に、20～29歳と30～39歳では“参加していない人”の割合が多く、8～9割を占めています。

現在参加していない人が、今後参加したい活動・関心のある活動は、「文化・芸術・スポーツ活動」が最も多く約2割となっています。

また、三郷市において、市民と行政による協働のまちづくりが進んでいると思うかをたずねたところ、約2割が“協働のまちづくりが進んでいる”としています。しかし、“協働のまちづくりが進んでいない”とした人が約半数を占めています。

次に、市政やまちづくりに対する関心度については、関心のあるかたが約6割となっています。年齢別にみると、20～29歳より上の年代では、年齢が上がるのにしたがって関心のあるかたの割合が多くなる傾向がみられ、70歳以上では7割を超えています。

さらに、市が行うまちづくりに参加したいと思うかについては、「計画・構想の段階から参加したい」は5.8%となっていますが、「自分の役割が明確になれば参加したい」は約3割、「人から頼まれたりすれば参加する」は約2割となっています。一方、「特に参加したいと思わない」は約4割を占めています。

これを、市政やまちづくりに対する関心度別にみると、『とても関心を持っている』では「計画・構想の段階から参加したい」が約3割を占めており、積極的な参加意向がうかがえます。一方、「特に参加したいと思わない」という割合が、『あまり関心を持っていない』では約6割、『まったく関心を持っていない』では約8割となっており、関心が低い層では参加意向も低くなっています。

まちづくりについて、今後どのような方法で意見や要望を伝えたり、活動に参加したりしたいと思うかについてたずねたところ、「投書箱・ファックス・電子メールで」が約3割で最も多くなっています。

まちづくりに参加するために必要な情報・知識については、「これからはじまる事業やその内容」が約4割で最も多く、次いで「実施している事業の内容・進み具合」が約3割となっています。

## 7. 公共施設について

住まいの近くで充実して欲しい機能については、「福祉や健康に資する拠点」が約3割で最も多く、次いで「うるおいが得られる拠点（公園・広場機能）」が約2割となっています。これを地区別にみると、早稲田地区や高州・東町地区、みさと団地・さつき平地区では「福祉や健康に資する拠点」が多く、戸ヶ崎地区と彦成地区では「うるおいが得られる拠点（公園・広場機能）」が多くなっています。

さらに、住まいの近くで充実して欲しい公共施設については、「病院・診療所」と「公園・緑地」がそれぞれ約3割で多くなっています。これを年齢別に上位をみると、19歳以下では「図書館」と「病院・診療所」が同率で第1位に、20～29歳では「子ども・子育て支援施設」が第1位に、60～69歳と70歳以上では「高齢者福祉施設」が第1位になっています。さらに地区別でも上位をみると、早稲田地区や高州・東町地区、みさと団地・さつき平地区では「病院・診療所」が第1位に、東和北地区や戸ヶ崎地区、彦成地区では「公園・緑地」が第1位になっています。また、東和北地区では「図書館」が第2位に、高州・東町地区では「行政サービスが受けられるところ」が第2位に上がっているなど、年代や地区によって希望するものが異なっています。

## 8. 市の職員について

市職員の印象についてたずねたところ、『言葉づかい』や『窓口等での対応』といった項目では、“良いとした人”が6～7割を占めて多くなっています。これを、平成14年度の調査結果と比較すると、すべての項目で“良いとした人”の割合が増加しており、職員に対する印象・評価が上がっています。